

壁歌は語る

(昭和三十七年寮歌)

執行洋視君 作歌
助川秀三郎君 作曲

一

壁歌は語る幾星霜

あつま さん わこうど

集り散ず若人が

夜々に語つたる苦悩の記

ひびの かんき 記

日々語つたる歓喜の記

二

壁歌は続く百年に

美辞をば嫌いし若人が

好機に交えたる時流の言

好機に乗りし時流の波

ああその思出いつか崩れん

三

壁歌は残る千代に

日夜ひもとき探索に

我が捨てたる邪道よ

我が容れたる真理よ

ああその純情後に偲ばん